

日本フォレンジック看護学会誌

(Journal of Japan Association of Forensic Nursing)

論文投稿規定

日本フォレンジック看護学会誌 (Journal of Japan Association of Forensic Nursing) は、日本フォレンジック看護学会が年に 2 回発行する学術雑誌である。発行の目的は、日本フォレンジック看護学会に所属する会員がフォレンジック看護に関する研究、調査、事業、教育・研修などを実施する中で、情報を共有し、成果を学び合い、課題を検討し合うことで、各会員の各種活動を活性・促進し、今後のフォレンジック看護の発展に寄与することである。

本雑誌では、高いレベルでの学 (Science) と術 (Art) を追い求めながらも、フォレンジック看護のもつ包括性および学際性を鑑みて、政策立案者から地域の実践者まで多様な職種の諸活動、さらにフォレンジック看護に関連する政治・経済・社会・文化など、様々な観点からの論文を取り上げる。したがって、論文は多様な職種・専門家間で共有して学べるよう、たとえば現場の実践家にも、他の専門家にも理解しやすいように記載されたい。

著者は、以下の投稿規定に基づいて原稿を作成・提出すること。なお、この規定に示されていない項目は、医学雑誌編集者国際委員会 (<http://www.icmje.org/>) が示す「生物医学雑誌への統一投稿規定」に準拠することとする。

1. 投稿資格

本誌への投稿は、編集委員会が特に認めた場合を除き、共著者も含め会員に限る。未加入の場合、投稿と同時に入会手続きを取ることができる。他誌に発表された原稿 (予定も含む) の投稿は認められない。

2. 研究の倫理性

執筆に当たっては、国際看護師協会 (ICN: International Council of Nurses) による「看護研究の倫理指針 (Ethnical Guidelines for Nursing Research)」を順守すること。また、倫理的配慮は、必ず本文中に明記すること。

3. 論文の言語

投稿原稿は、和文・英文いずれでもよいが、国際的に発信したい (すべき) 内容は、できるだけ英文とする。

4. 投稿原稿の種類と構成

投稿原稿の種類とその内容は、表 1 の通り。これ以外に、編集委員会で認めたものを掲載することもある。また、投稿原稿の構成や見出しは、表 2 の通りとする。

5. 原稿の採否・査読

論文の採否は、複数人の査読者を経て編集委員会で決定する。査読は、投稿者氏名等を伏せて行う。投稿原稿の修正を求められた場合には、できるだけ速やかに、指摘された事項に対応する回答を付記した上で再投稿すること。

6. 著者校正

掲載予定の論文の校正を著者が1回行う。校正の際の加筆、修正は原則として認めない。

7. 著作権

著作権は本学会に帰属する。掲載後は本学会の承諾なしに他誌に掲載することを禁ずる。掲載が決定した論文については、全著者が著作権譲渡のサインを提出すること。

8. 掲載料および別刷

- a) 掲載料は、原則として無料。論文の内容により編集委員会が規程枚数を超えることを特に認めた場合には、超過分の実費を著者が負担する。
- b) 別刷料の実費は著者が負担する。

9. 原稿の執筆要領

- a) 原稿は、ワープロソフト（なるべくマイクロソフトワード）で作成し、全て白黒印刷とする。
- b) 原稿は、A4 版用紙（縦）横書き、フォントサイズ 10.5 ポイント、35 字×28 行/頁とする。数字および英字は原則として半角とする。
- c) 原稿の第 1 ページ目（表紙）には、希望する論文種類、表題、原稿枚数、図表の枚数、キーワード（5 語以内）、必要別刷部数を明記する（2 ページに渡ってもよい）。原著を希望する場合は、表題、キーワードについては英文を併記する。
- d) 和文要旨および英文要旨は、原稿の種類により必要とされる場合がある（表 2 参照）。英文要旨は必ず専門家または英語母国語者のチェックを受けて証明書を添付する。
- e) 文体は平易簡潔な口語体を用い、一般用語は新仮名づかい、常用漢字を使用し、専門用語は「医学用語辞典（南山堂）」および「看護学用語辞典（医学芸術社）」に従う。数字は算用数字を用いる。
- f) 図表は、別紙に 1 枚ずつ作成し、それぞれ掲載順に図 1、表 1 のように一連番号をつけ、それぞれの挿入希望位置を本文中に（図 1 を挿入）などで示す。必要に応じて表題のほかに適切な説明をつける。特に図は、そのまま掲載できる明瞭なものを作成すること。尚、図表は A4 用紙 1 枚を 1,000 字、半分を 500 字、4 分の 1 を 250 字とみなす。
- g) 引用文献については、アメリカ心理学会（APA：American Psychological Association）発行のマニュアル「Publication Manual of the American Psychological Association」に準拠する。

①引用の本文中表示

- ・表示は引用した内容を正確に示す場所に行い、本文中に著者名と出版年を記す。
例：(加納, 2013)
- ・著者が 2 名の場合、その文献が出現するたびに 2 名の氏名を書く。

例：(加納, 米山, 2013)

- ・ 共著者が3～5名の場合は最初の引用箇所を全員を列挙する。同じ著書を再度引用する場合は、筆頭著者に「ら (英文は “et al”)」を付して表示する。
- ・ 共著者が6名以上の場合は、筆頭著者に「ら (英文は “et al”)」と表示する。
- ・ 異なる著者の文献を同一箇所引用する際は、セミコロンで区切って、筆頭著者のアルファベット順に並べる。

例：(藤田, 2011 ; 家吉, 2014 ; 友田, 2012)

- ・ 著者のない著作の引用表示は、タイトルを著者名として表示する。

例：(性暴力被害者の支援を行う SANE の活動, 2014 年 8 月 30 日, ○○新聞)

- ・ 書籍等の一部を引用する際は、ページ番号を表示する。

例：(鈴木, 2011, pp. 12-13)

②文献の記述

- 1) 引用文献は、著者の姓のアルファベット順に配列する。2行以上に渡るときは、2行目以降の左端を全角2文字分下げして記述する。
 - ・ 共著のときは筆頭著者の姓の順。筆頭著者が同一なら第2著者の姓の順。
 - ・ 同一著者の文献は、出版年順に配列する。同じ出版年のものが複数あるときは2010a, 2010bのようにアルファベットをつけて区別する。本文中の引用部分でも同一のアルファベットを用いて出典を区別する。
 - ・ 同一筆頭著者の単著と共著は、単著が優先される。
 - ・ 共著の中では、共著者数の少ないものが優先される。
- 2) 引用文献の種類別記載例 (詳しくは上記マニュアルを参照のこと)

書籍の一部を引用する場合

著者名 (西暦出版年). 章のタイトル. 本の著者・編者名. 書名. 発行所所在地, 発行所, pp. 頁一頁

例) 新垣義夫 (2009). 医療機関を軸としてみた虐待. おかやま児童虐待事例研究会 (著). 児童虐待 おかやまから 116 人の提言. 岡山, 吉備人出版, pp. 24-25

翻訳書の場合

原著者英語名 (原書出版年). タイトル. 原書出版社. (原作者カナ名. 訳者名 (訳) (訳書出版年). 翻訳書名. 翻訳書出版社, pp. 頁一頁)

例) Bancroft, L. (2002). *The batterer as parent*. CA: SAGE Publications. (バンクロフト L. 幾島幸子 (訳) (2004). DV にさらされる子どもたち—加害者としての親が家族機能に及ぼす影響. 東京: 金剛出版, pp. 101-108)

電子情報の場合

サイトの設置者名とアドレスおよびサイトにアクセスした日付を記載する

例) 日本フォレンジック看護学会 <http://jafn.jp/> [2014. 03. 29]

10. 投稿手続き

- a) 投稿は、原則として本学会ホームページからの登録によるものとする。
- b) ホームページから投稿する際は、本文およびファイル名に、著者名・所属機関名・謝辞などのデータは入れないこと。(査読者がそのまま査読することになるため)

- c) 複数のファイル（本文、図表等）はまとめて、単一の圧縮ファイルで提出する。

投稿原稿についての問い合わせ先

〒300-0394 茨城県稲敷郡阿見町阿見4 6 6 9-2
 茨城県立医療大学保健医療学部看護学科 研究室 51
 日本フォレンジック看護学会事務局
 E-mail: mail@jafn.jp
 http://jafn.jp/

表1 投稿原稿の種類と内容

種類	内容	頁(字)数
オピニオン	フォレンジック看護に関する研究、活動、政策、動向などについての提案・提言	8 頁 (8,000 字、2,500 words) 以内
総説	フォレンジック看護に関する研究・調査論文の文献考察を行い、著者自身の考察を加えて論評しているもの	16 頁 (16,000 字、5,000 words) 以内
原著	フォレンジック看護に関する独創的な研究論文または科学的観察	16 頁 (16,000 字、5,000 words) 以内
短報	フォレンジック看護に関する独創的な研究論文または科学的観察の短報	8 頁 (8,000 字、2,500 words) 以内
報告 (活動報告)	フォレンジック看護に関する実際的な活動をまとめたもので、他地域で同様の事業を展開する場合に参考になるようなもの	16 頁 (16,000 字、5,000 words) 以内
資料	上記のいずれにも当てはまらないが、フォレンジック看護において有用な情報や資料となりうると判断されるもの	16 頁 (16,000 字、5,000 words) 以内
会員の声	掲載論文に対する意見、関連学会・会合などの報告、その他会員からの声	2 頁 (2,000 字、700 words) 以内
緊急レポート	フォレンジック看護に関する初期的・萌芽的・実際的な活動経過報告など	2 頁 (2,000 字、700 words) 以内

表2 投稿原稿の構成

項目	内容
和文要旨 (1,000字以内)	和文・英文を問わず「原著」「短報」「報告」「資料」に付す。「原著」「短報」については目的・方法・結果・結論にわけ、「報告」「資料」については同様、またはそれに準ずる適切な見出しをつけて記載すること。
英文要旨 (英文350語以内)	和文による「原著」「短報」「報告」「資料」に付す。その他も、国際的に広く発信したい場合には添えて良い。 「原著」「短報」については Introduction・Methods・Results・Conclusions にわけ、「報告」「資料」については同様、またはそれに準ずる適切な見出しをつけて記載すること。
キーワード	5個以内とする。つけ方は、Online searching of MeSH vocabulary (http://www.nlm.nih.gov/mesh/MBrowser.html) を参考にする。
本文	「原著」「短報」については、原則として以下のような見出しをつける。「報告」「資料」については同様または準ずる見出しをつける。「オピニオン」については見出しをつけてもつけなくてもよい。
I 緒言	研究・調査・事業などの背景と目的を記す。
II 方法	研究・調査・事業などの方法について、対象者や地域、標本抽出方法、使用した手法、解析・評価・検討の方法などを記す。「報告」では、他地域での同様の活動を展開するものに参考になるような記載を行う。 倫理的配慮について明記すること。
III 結果	研究・調査・事業などの結果・成績などを記す。必要に応じて図表を使ってわかりやすく示すことが望まれる。「報告」「資料」については、必要に応じて結果と考察をまとめたり、別の項目を立てたりしてもよいが、客観的な事実としての結果と、著者らによる意見や分析は分けて記載する。
IV 考察	結果・成果に関する考察や評価。「報告」については、他地域での同様の活動の参考となるよう、成果や問題点、課題・教訓に関する分析・検討、他の事業に普遍化できるものとその活動における特殊性のあるものの整理を行う。
V 結論(省略可)	本研究・調査・事業から導かれた結論、明らかになったこと、学んだことなどを簡潔に整理する。
文献	「原著」「短報」「総説」は必須。「オピニオン」「報告」「資料」も必要に応じて入れる。「原著」「短報」「総説」はできるだけ学術雑誌・単行本など、出典が広く入手・検索できるものとするが、「オピニオン」「報告」「資料」はインターネットで入手した文書、新聞・一般雑誌、出典の検索・入手はしにくいだが、途上国やその地域における貴重な資料も含めて良い。また、事業で作成した研修マニュアルや報告書、その他、他の類似の事業に参考になるような資料は、その入手方法などを含めて文献または本文中に示してもよい。
謝辞(省略可)	研究助成などがある場合はそれを明示すること。

利益相反	<p>「助成」がある場合、「助成」の欄の次に「利益相反」の欄を設け、当該研究の遂行や論文作成における利益相反の有無を記載する。すなわち、A) 利益相反となるような経済的支援を受けた場合には、その旨を明記する。B) 利益相反状態が存在しない場合には、「本研究における利益相反は存在しない」と記載する。</p> <p>**利益相反：「外部との経済的な利益関係等によって、公的研究で必要とされる公正かつ適正な判断が損なわれる、または損なわれているのではないかと第三者から懸念が表明されかねない事態」（厚生労働科学研究における利益相反（Conflict of Interest: COI）の管理に関する指針」（平成20年3月31日科発第0331001号）。</p>
著者資格	<p>「利益相反」の次に論文における各著者の原稿への貢献をこの項に記載する。</p> <p>著者とは、投稿された論文に重要な知的貢献をした者である。1) 研究の着想、デザイン、またはデータの入手、分析、解釈に重要な貢献をした、2) 原稿の作成に関与し、論文の内容について責任を負える、研究への十分な参加をしている者である。資金の獲得、データ収集、または研究グループへの部分的な助言のみを行った者は著者にあたらぬ。</p> <p>各著者の貢献内容は、この項で次のように記載する。（各著者の貢献について言及する際、イニシャルを用いること）</p> <p>例）AB および CD は研究の着想およびデザインに貢献；EF は統計解析の実施および草稿の作成；GH は原稿への示唆および研究プロセス全体への助言。すべての著者は最終原稿を読み、承認した。</p> <p>上記の著者資格に当てはまらない貢献者は、謝辞に記載する。謝辞に記載する者の例として、純粋な技術的支援を提供したもの、執筆の補助、または部門の責任者等が含まれる。</p>